

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870103250
法人名	株式会社 ユニケア
事業所名	アトラス馬木
所在地	松山市馬木町2174番地
自己評価作成日	平成 26 年 10 月 20 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 11 月 11 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の皆様には、個別に応じて起立運動・滑車・電気治療等のリハビリメニューがあり、出来る限り毎日継続して行って頂いている。リハビリえお行うことにより、筋力・上下肢維持・向上に努めている。またリハビリ毎日継続して行うことで生活に張りが出て意欲の向上につなげている。また地域・施設の行事の参加することで、地域の方々との交流を図っている。季節感を味わっていただけるように、毎月、外出、外食を計画し取り組んでいる。また誕生日会では、職員が出し物をしたり、ボランティアの慰問を依頼するなどして利用者さんに楽しい時間を過ごして頂ける様支援している。今後は、地域の方々にも協力して頂き、行き来できる環境を作って行きたい。地域のアトラス馬木としてアトラス馬木から地域は発信できる事を見つけて今まで以上に地域との関わりを深めて行きたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は閑静な住宅街にあり車の通りも少ないため、日常的に事業所周辺や近くの公園まで散歩をしている。敷地内には広い畑があり、利用者と一緒に季節の野菜づくりを楽しんでいる。施設長をはじめ職員は理念にある「地域の中で共に暮らす」ことを大切に、積極的に外出を支援したり事業所でイベントを開催したりするなど、利用者が楽しみながら地域とかかわりが持てるよう努めている。共有スペースにはリハビリ室があり、歩行器や物理療法の機械が備え付けられ、機能訓練を図ることで日常生活動作が改善され利用者が喜ばれることもある。日頃から外気浴や散歩を取り入れ、季節毎に出かけるなど外出する機会が多く、利用者の気分転換にも繋がっている。また、代表者と施設長、職員とのコミュニケーションが図られ関係性がとてもよく、職員全員で利用者を大切に思いながらケアに反映できるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 アトラス馬木

(ユニット名) Aユニット

記入者(管理者)

氏名

菅谷 誠

評価完了日

平成 26 年 10 月 20 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 地域の中で共に、地域の方々と暮らしていける事、その人らしい生活が送れることを理念にあげ、職員全員が理念を共有し、実践につなげている。</p> <p>(外部評価) 理念にある「地域の中で共に暮らす」ということを大切にしてい地域とかかわりが持てる支援に力を入れている。理念は玄関と各ユニット、事務所の目につく場所に掲示し、職員全員で共有している。先日、職員間で理念を振り返り、「その人らしい」に着目して話し合ったところ奥が深いという結論になった。今後も「その人らしく」地域で暮らしていけるよう、施設長は利用者一人ひとりを理解し実践に繋げていきたいと改めて感じている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域行事(夏祭り、秋祭り、運動会、掃除、防災訓練等)に参加し、また施設の行事にも地域の方々に声をかけ参加して頂き、地域と施設(利用者)のつながり、関わりを大切にしている。散歩時の挨拶、会話の中でも、地域との交流は日常的に出来ている。</p> <p>(外部評価) 保育園児の訪問や小学校の運動会参加などで子どもたちとも顔馴染みになっている。事業所の行事にはチラシを配布し立ち寄ってもらったり、地域の行事にも出掛け、今年の夏祭りには売り子として参加した。自治会に入会し市民大清掃にも参加するなど、地域とのつながりを大事にしている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 定期的で開催している運営推進会議や講習会の中で、認知症の人の理解や支援方法を伝達、報告している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 2か月毎の運営推進会議に、町内会長や公民館長、民生委員、介護保険課、地域の駐在委さん、他のグループホームの方、また家族の方にも参加して頂いており、利用者やサービスの実際、評価への取り組みとその結果についても報告を行い、地域の方、他のGHの方の意見を取り入れ、サービス向上に生かしている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は市担当者、社協職員、町内会長、民生委員、駐在所長、家族等の幅広い参加を得て開催している。会議には、他の事業所の職員等の参加が毎回あり、貴重な意見や情報を聞く機会となっている。また、参加者から地域住民等への呼びかけがあり、参加者増に繋がっている。母体は医療法人であることから病気や感染症などの資料を用意し、議題も豊富である。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 介護保険課の方、地域包括の方に運営推進会議等に参加して頂き、新しい情報を提供して頂ながら協力関係を築くよう取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 市担当者が運営推進会議に参加しており、利用者の相談をするなど連携を深めている。後見人制度や生活保護などを利用することもあり、相談にのってもらうなど協力関係を築いている。苦情等があった場合には、市担当者にありのままの状況を報告している。市担当部署から事業所の近くにある公園の清掃など管理の依頼があり、利用者と一緒に清掃を行っている。また、書類などは郵送するのではなく、できる限り窓口を持参するなど、顔馴染みの関係が築けるよう努めている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束についてのマニュアルを作成し職員全員が十分に理解をした上で、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。危険を伴う方については事前にご家族様へ十分な説明を行い、了解を頂いた上で、期間を決めて実践している。玄関の施錠は、防犯対策として夜間のみ施錠している。</p> <p>(外部評価) 身体拘束のマニュアルを作成し、職員が利用者に寄り添い見守ることで身体拘束をしないケアに取り組んでいる。新人研修には身体拘束等をテーマに取り入れるほか、勉強会やミーティング等で身体拘束をしないケアについて職員間で話し合っている。ベッドから転落の恐れのある利用者に見守りなどで対応していたが、現在、家族の同意を得て柵を使用している。言葉での拘束についても、職員全員で意識しながら適切な対応をするよう心がけている。また、夜間のみ防犯面に配慮し玄関を施錠している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待について職員は皆周知しており、勉強会などで再確認する機会を持ち、身体的、精神的虐待防止に向けて取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 地域権利擁護事業や成年後見制度について、職員皆が理解しており、必要に応じて活用される方も利用者の中でのいます。制度を活用できるように、関係者と協力して支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所する前や改定時に十分な説明を行い、利用者や家族の不安、訴えを聞き、家族の理解、納得を得たうえで契約、または解約を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の面会のない方もあり、全員の意見は得られないが、家族会を開催したり、常に利用者、家族の声を聞き入れ、不満、苦情の声に対して解決できるように努めている。また重要事項説明書には外部の相談機関への連絡先も明記している。	
			(外部評価) 利用者や家族が運営推進会議に参加しており、意見や要望を聞いている。面会時には家族と会話し、意見を聞くよう努めている。また、年2回家族会を行い、家族同士の交流や率直な意見を聞くことができている。毎月アトラス馬木便りに手紙を添えて送付し、遠方の家族にも近況を伝えている。電話等で連絡もこまめに行い、意見を聞くよう努めている。出された意見は迅速に対応するよう心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 定期的に職員間のミーティングを行い、職員個々の意見として、改善提案書などを書いてもらい、皆で検討して、改善に努めている。 (外部評価) 施設長は毎月のミーティングやユニット会、チーフ会で職員の要望や意見を聞くよう努めている。代表者が女性であることから月1回女性職員だけで食事会を開催したり、男性職員は母体の医療法人院長とスポーツや釣りなどに出かけ親睦を深めている。代表者や施設長に職員は何でも話やすく、働きやすい職場環境や信頼関係づくりを大切にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員の個々の条件に応じ、勤務時間の調整、就業時間内勤務の徹底を行い各自が向上心を持って働けるように職場環境・条件の整備に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 施設内では、毎月勉強会を開いたり、個々に応じ研修会への参加を行ったり地域で行われる研修会への参加等を行っており、職員のスキル向上に努めている。職員が資格所得に努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 他のグループホーム企画するお茶会や祭り、運営推進会議の参加を行い、交流できる機会を持つと共に、ネットワーク作り相互訪問等活動を通じてサービスの向上に努めている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前に本人と面会し、困っている事、不安なこと、要望を傾聴し、よりお互いに信頼できる環境を作っている。利用者の声にできる限り答えられるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 本人と同様に、事前によく話し合いを行い、困っている事、不安な事、要望を聞き入れ納得して頂いた上で信頼関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人と家族に、事前によく話し合いを行い、必要に応じた対応ができる体制をとるようにしている。本人と家族の要望に違いがあったり、GHの入所とは違いのある場合は別のサービスがあることをお伝えし、相談に乗っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日々の生活を共にする中で、教えてもらったり、支援したりして喜怒哀楽を共感できる関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 施設の行事にも、家族の方に参加して頂き、利用者の方と一緒に楽しめる環境を作ると共に家族が困ったときは、職員が協力をし、職員も家族に協力を依頼できる体制を作っている。毎月のお手紙で家族にその月の状態や、行ったことを報告し理解を得ている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人の希望を聞き入れ、馴染みの美容室へ行かれたり、近くのスーパーなどへ行き声をかけて頂いたりして馴染みの関係が途切れないように支援している。また個人的にもできる限り要望が叶えられるように支援している。 (外部評価) 友人や知人の面会時には、快く対応し、知人等への電話も掛けられるよう支援している。馴染みの美容室やすし屋などに出かけられるよう支援している。近所のコンビニやスーパーにもよく出かけ、店員と顔馴染みになり利用者が一人で外出をしている場合は声をかけてもらえるようにしている。利用者の高齢化や重度化に伴い、馴染みの関係が薄らいでいる現状もあるが、施設長は少しでも多く馴染みの関係を継続支援していく方針である。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 常に全体の把握に努め、互いの関係を考慮したレクリエーション活動への参加を働きかけ、孤立しない関係作りを行っているが、何かトラブルがある時は、職員が利用者の状態を理解し良い関わり合いが出来るように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所されても関係が保たれているよう、ご家族様と連絡を取り合ったりして、施設の行事等に快く来て下さり、一緒に参加されたりして、これまでの関係性を大切にしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 毎日の生活の中で、本人の思いや、希望を把握し、その思いに添えるその人らしい生活を送って頂けるよう取り組んでいる。 (外部評価) 日々の関わりの中で利用者に声をかけ、思いを把握するように努めている。思いの把握が困難な利用者には、表情や行動からくみ取ったり、家族から情報を得たりしながら、少しでも思いを知るよう努めている。お酒の好きな利用者には、ノンアルコールではあるが雰囲気味わってもらったり、実際にワインを出し喜んでもらったりした事例もある。新たに知り得た情報は生活記録に残し、職員で共有し利用者の思いを大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) センター方式を活用し、入所時にご家族様を交え、これまでの生活歴、好きな物等、情報収集を行い、入所されてからの生活に反映していけるように支援している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ひとりひとりの生活のレベルに応じて無理なく生活ができるようにしている。休みたいときはゆっくりして頂き、食事、入浴等、出来ることはして頂いている。またその日の細かな変化を早期発見し対応できるように支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 計画担当者の指示のもと、関係する職員が集まり、その方にあった介護計画を作成し、介護支援専門員と相談し、本人、家族、必要な方の声を聴き、より良い生活が出来るように計画作成している。状態の変化がある場合は計画の立て直しをしている。	
			(外部評価) 利用者や家族の意見を事前に聞き取り、職員全員でカンファレンスを行い、担当職員を中心に利用者本位の介護計画の作成に努めている。定期的にモニタリングをして、チーム会で必要に応じて見直しをしている。職員全員の意見や気づきを大切に考え、介護計画がより良いものになるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子やケアの実践・結果、気づきを個別に記録している。職員間で情報を共有し意見を出し、再アセスメントし介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の状況、その都度のニーズへの対応、ひとりひとりにとって良い方法へのサービスを考慮し取り組んでいる。リハビリ室や特浴、畑や、愛犬の飼育等様々あり、個人の状態、要望に柔軟に対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 年間を通して地域の行事への参加、近くのお店への買い物、ボランティアなどの取り組みから体験し喜びや楽しみを感じることが出来ている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 協力医療機関と連携関係にあり、必要に応じた受診を行って いる。本人及び、家族の意見や要望を尊重し、かかりつけ医 による継続的な医療を受けられるように支援している。 (外部評価) ほとんどの利用者や家族が希望して、母体の診療所をかかり つけ医としている。月2回往診があり、急変時にも24時間迅 速に対応できる体制が整っており、利用者や家族には安心感 がある。専門医の受診は家族の同行を基本としているが、同 行できない場合には職員が対応し受診内容を家族に報告して いる。利用者が安心して適切な医療を受けられるよう支援し ている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 介護職員は常に利用者の変化を観察し、情報や気づきを看護 職員に報告、看護職員はその変化に対応し、医師との相談、 連携を行い必要時は受診や看護を受けられるように支援して いる。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 利用者が入院された場合は、こまめに面会に行くなど、安心 して頂けるように対応し、家族と相談しながら、また早期退 院に向けて病院関係者（医師・看護師）との情報交換、相談 を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入所の前に終末期また重度化した場合についての話し合いを 行っており、職員全員に周知している。終末期のあり方につ いて、本人、家族の要望を聞き、施設でできることを医療機 関とも相談し、チーム全体で支援取り組んでいる。 (外部評価) 「看取りに関する指針」を定め、入居時に事業所で対応でき る内容を家族に説明している。利用者の状態に合わせて、そ の都度医師から説明を行い、利用者や家族と話し合い意向を 聞くようにしている。終末期には家族に了承を得て部屋にカ メラを設置し、医師がどこにいても利用者の状態をパソコン の映像で把握することで、家族や職員の安心にも繋がってい る。緊急時にも職員が適切な対応ができるよう、心肺蘇生方 法やAEDの使用方法を新人研修や内部研修に取り入れ、職 員全員で意識できるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時に備えてその対応、対処法を定期的に講習し実践力を身につけている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に避難訓練、防災訓練を行っており、職員皆があらゆる方法を心得ている。消防署も近いので協力体制はできている。地域の方々にも避難訓練に参加して頂き、災害時の協力体制は整っている。 (外部評価) 年2回消防署立会いのもと避難訓練を行っており、内1回は夜間を想定した訓練を実施している。定期的な防災器具の点検や使用方法、避難場所の確認などを行い、職員に意識づけをしている。日頃から職員全員で防災意識を持つよう努め、利用者の安心安全な生活を守るため災害対策に取り組んでいる。	災害発生時に職員だけでの利用者の避難誘導等には限界があるため、近隣住民に事業所内の見学をしてもらい、一緒に訓練を実施するなど、協力体制を築くことを期待したい。また、施設長は備蓄品の用意が不十分と認識していることから、内容や数量等を見直すことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者ひとりひとりの生活のレベルに応じて、入浴、排泄、食事等の介助を行っており、プライバシーを損ねないよう言葉かけ、呼び名、敬語等にも配慮している。 (外部評価) 利用者の名前呼び方を職員全員で話し合い、不快のない「○○さん」と統一した呼び方をしている。トイレや入浴の介助時には、利用者の羞恥心や尊厳を損なうことのないよう気を配り、声かけのタイミングや声の大きさなど不快のない対応を心がけている。また、利用者一人ひとりの人格を大切にして支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中でコミュニケーションを取りながら、利用者の表情や反応を観察し、その思いや希望を表せるような対応を心掛け、自己決定できるように働きかけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日常生活の中で、強制するのではなく、本人の希望を優先し、ひとりひとりのペースを大切にし、本人の過ごしやすい環境作りを支援している。外出等も参加希望を聞き本人の意思を大切にしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) おしゃれや身だしなみを通して、生活の中での楽しさを感じることができるよう、本人の好みを主にしながら支援している。本人の意思が聞けない場合は、家族から以前の好みを聞き、馴染みの装いができるように心掛けている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) ひとりひとりの声を聞き、メニューの参考にし、また外食等を行い、食事を楽しんでもらえるよう、配慮している。また、準備や片付け等、出来る利用者には手伝って頂いている。 (外部評価) できるだけ旬の食材を使うよう心がけ、温かい物は温かく、冷たいものは冷たくと配慮して職員が調理している。食事前にはお茶で口を潤おしたり、歌を口ずさんだりして唾液を出すことで、食べやすく誤嚥しないよう注意を払っている。利用者は職員と同じテーブルを囲み、会話を楽しみながら食事をすることができている。また、利用者の好きなお寿司など外食ができるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者個々の摂取量、水分出納量を把握し、1日量を確保できるように支援している。ひとりひとりに応じて刻み食や補助食品を提供したり、水分も摂取しやすいように提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) ひとりひとりの口腔所内に応じ口腔ケアを毎食後行っている。一人で出来ない方は介助して行い、自分でできる方は見守りに対応している。義歯を使用している方は、義歯用歯ブラシを使用し、週3回定期的に消毒を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) ひとりひとりの排泄パターンを排泄チェック表を用いて職員皆が把握し出来るだけトイレでの排泄が出来るように、個々に合わせた誘導、声掛けを行い、自立に向けた支援を行っている。尿意、便意の訴えのできない利用者については、定期的に確認し交換を行っている。	
			(外部評価) 日中に利用者ができるだけトイレで排泄ができるよう支援している。排泄チェック表を用いて、一人ひとりのリズムやタイミングを把握するよう努めている。利用者の状態に合わせて、リハビリパンツを使用したり夜間のみポータブルトイレを使用したりするなどの対応をしている。また、トイレが2か所あり、状態に合わせて使い分けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘に関する理解は皆周知しており、個々の便秘の原因を確認し、食事メニューの検討、水分、散歩やリハビリ、運動などを行い、便秘予防に取り組んでいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴日は決まっているが、ひとりひとりの希望、タイミングは出来るだけ合わすように配慮している。また気持ちの良い入浴が楽しめるように心がけている。	
			(外部評価) 週3回の入浴を基本としているが、利用者の希望があれば毎日入浴できるよう支援している。入浴を嫌う利用者には、無理強いしないよう声かけやタイミングを工夫している。また、特殊浴槽が完備され、利用者の状態に合わせて使用するなど、安心安全に気持ちよく入浴を楽しむことができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個々の意見を尊重し、ゆっくり過ごせる自由な時間を設けている。必要な休息、睡眠を支援している。就寝時間も本人の希望に合わせて声掛け、誘導を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬のマニュアルを作成し、職員に皆が周知しており、利用者の処方薬について、目的、副作用は理解している。自力で服薬できない方は介助している。症状に変化がみられた場合は、主治医と相談しその症状に応じた対応が出来るように努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者個々の出来ること、出来ないことを把握しており、簡単な役割を持っていただくことにより、生活に張りを持っていただいている。個々に応じカラオケをしたり、カルタ、オセロをしたり、気分転換を図れるように支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) その日の状態、状況に応じ散歩、買い物などの気分転換を行っている。また外出場所は、それぞれの希望を聞き配慮したうえで計画している。地域交流会などにも参加したりしている。 (外部評価) 事業所前の庭は広く、日常的に外気浴を楽しんでいる。敷地内の畑で野菜づくりなどを楽しむ利用者もいる。事業所周辺や近くの公園に散歩したり、買い物に出かけたり、地域の交流会に参加するなど外出する機会が多い。季節毎にマイクロバスを使用し、イチゴ狩りや花見、買い物などに出かけることが多く、その際にはお弁当や外食等を取り入れ利用者の楽しみに繋がっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人の希望に応じ、欲しいものがあれば購入できるように支援している。現在はお金は施設管理にしており自分で所持している利用者はいない。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族の制限がない限り、本人の希望に応じて電話や気持ちの伝達など、その都度配慮して支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 毎日の掃除により衛生管理を徹底している。トイレには芳香剤を設置し、汚染時は速やかに消毒、掃除を行っている。湿度、温度、明るさなどの環境整備を配慮し、季節の花を飾ったり、金魚を飼ったりして、生活感、季節感が感じられ、居心地良く過ごせる工夫をしている。</p> <p>(外部評価) リビングの壁には季節の飾りつけや月の行事予定が貼ってある。手作りカレンダーがあり、毎日利用者が日付を入れ替えている。金魚の水槽が置かれ、餌やりや鑑賞も利用者の楽しみとなっている。大きな窓から光が差し込み、窓辺のソファで利用者はゆっくりくつろいでいる。また、施設長は事業所内の臭気気づかい、清掃をこまめに行うことにより衛生管理も徹底し、利用者が過ごしやすい環境づくりをしている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) リビング、居室等、自由に過ごして頂いている。利用者同士仲の良い方は近くで過ごせるような工夫をしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 入所の際は、本人の馴染みの物の持ち込みをお願いしており、本人がなるべく抵抗なく生活して頂けるような環境作りを行い、本人が居心地良く過ごせるような工夫をしている。</p> <p>(外部評価) 居室はベッド、タンス、エアコンが備えつけられている。家族との写真や位牌、テレビ、ラジオなど馴染みの物が持ち込まれ、利用者が居心地よく過ごせる空間となっている。持ち込みの規制はしていないがシンプルにまとめられ、利用者の移動の妨げにならないよう配慮している。また、家族の了承を得て居室の前に利用者の写真を貼り、分かりやすいよう工夫している居室もある。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 生活の中で、歩行器やシルバーカーを使用し自立した歩行ができるように環境整備し転倒防止に努めている。また、安心して自立した生活が送れるようにトイレ誘導用の張り紙等、工夫している。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870103250
法人名	株式会社 ユニケア
事業所名	アトラス馬木
所在地	松山市馬木町2174番地
自己評価作成日	平成 26 年 10 月 20 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 11 月 11 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の皆様には、個別に応じて起立運動・滑車・電気治療等のリハビリメニューがあり、出来る限り毎日継続して行って頂いている。リハビリえお行うことにより、筋力・上下肢維持・向上に努めている。またリハビリ毎日継続して行うことで生活に張りが出て意欲の向上につなげている。また地域・施設の行事の参加することで、地域の方々との交流を図っている。季節感を味わっていただけるように、毎月、外出、外食を計画し取り組んでいる。また誕生日会では、職員が出し物をしたり、ボランティアの慰問を依頼するなどして利用者さんに楽しい時間を過ごして頂ける様支援している。今後は、地域の方々にも協力して頂き、行き来できる環境を作って行きたい。地域のアトラス馬木としてアトラス馬木から地域は発信できる事を見つけて今まで以上に地域との関わりを深めて行きたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は閑静な住宅街にあり車の通りも少ないため、日常的に事業所周辺や近くの公園まで散歩をしている。敷地内には広い畑があり、利用者と一緒に季節の野菜づくりを楽しんでいる。施設長をはじめ職員は理念にある「地域の中で共に暮らす」ことを大切に、積極的に外出を支援したり事業所でイベントを開催したりするなど、利用者が楽しみながら地域とかかわりが持てるよう努めている。共有スペースにはリハビリ室があり、歩行器や物理療法の機械が備え付けられ、機能訓練を図ることで日常生活動作が改善され利用者が喜ばれることもある。日頃から外気浴や散歩を取り入れ、季節毎に出かけるなど外出する機会が多く、利用者の気分転換にも繋がっている。また、代表者と施設長、職員とのコミュニケーションが図られ関係性がとてもよく、職員全員で利用者を大切に思いながらケアに反映できるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 アトラス馬木

(ユニット名) Bユニット

記入者(管理者)

氏名 菅谷 誠

評価完了日 平成 26 年 10 月 20 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 地域の中で共に、地域の方々と暮らしていける事、その人らしい生活が送れることを理念にあげ、職員全員が理念を共有し、実践につなげている。</p> <p>(外部評価) 理念にある「地域の中で共に暮らす」ということを大切にしてい地域とかかわりが持てる支援に力を入れている。理念は玄関と各ユニット、事務所の目につく場所に掲示し、職員全員で共有している。先日、職員間で理念を振り返り、「その人らしい」に着目して話し合ったところ奥が深いという結論になった。今後も「その人らしく」地域で暮らしていけるよう、施設長は利用者一人ひとりを理解し実践に繋げていきたいと改めて感じている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域行事(夏祭り、秋祭り、運動会、掃除、防災訓練等)に参加し、また施設の行事にも地域の方々に声をかけ参加して頂き、地域と施設(利用者)のつながり、関わりを大切にしている。散歩時の挨拶、会話の中でも、地域との交流は日常的に出来ている。</p> <p>(外部評価) 保育園児の訪問や小学校の運動会参加などで子どもたちとも顔馴染みになっている。事業所の行事にはチラシを配布し立ち寄りしてもらったり、地域の行事にも出掛け、今年の夏祭りには売り子として参加した。自治会に入会し市民大清掃にも参加するなど、地域とのつながりを大事にしている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 定期的で開催している運営推進会議や講習会の中で、認知症の人の理解や支援方法を伝達、報告している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 2か月毎の運営推進会議に、町内会長や公民館長、民生委員、介護保険課、地域の駐在委さん、他のグループホームの方、また家族の方にも参加して頂いており、利用者やサービスの実際、評価への取り組みとその結果についても報告を行い、地域の方、他のGHの方の意見を取り入れ、サービス向上に生かしている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は市担当者、社協職員、町内会長、民生委員、駐在所長、家族等の幅広い参加を得て開催している。会議には、他の事業所の職員等の参加が毎回あり、貴重な意見や情報を聞く機会となっている。また、参加者から地域住民等への呼びかけがあり、参加者増に繋がっている。母体は医療法人であることから病気や感染症などの資料を用意し、議題も豊富である。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	<p>(自己評価) 介護保険課の方、地域包括の方に運営推進会議等に参加して頂き、新しい情報を提供して頂ながら協力関係を築くよう取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 市担当者が運営推進会議に参加しており、利用者の相談をするなど連携を深めている。後見人制度や生活保護などを利用することもあり、相談にのってもらうなど協力関係を築いている。苦情等があった場合には、市担当者にありのままの状況を報告している。市担当部署から事業所の近くにある公園の清掃など管理の依頼があり、利用者と一緒に清掃を行っている。また、書類などは郵送するのではなく、できる限り窓口を持参するなど、顔馴染みの関係が築けるよう努めている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 身体拘束についてのマニュアルを作成し職員全員が十分に理解をした上で、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。危険を伴う方については事前にご家族様へ十分な説明を行い、了解を頂いた上で、期間を決めて実践している。玄関の施錠は、防犯対策として夜間のみ施錠している。</p> <p>(外部評価) 身体拘束のマニュアルを作成し、職員が利用者に寄り添い見守ることで身体拘束をしないケアに取り組んでいる。新人研修には身体拘束等をテーマに取り入れるほか、勉強会やミーティング等で身体拘束をしないケアについて職員間で話し合っている。ベッドから転落の恐れのある利用者に見守りなどで対応していたが、現在、家族の同意を得て柵を使用している。言葉での拘束についても、職員全員で意識しながら適切な対応をするよう心がけている。また、夜間のみ防犯面に配慮し玄関を施錠している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待について職員は皆周知しており、勉強会などで再確認する機会を持ち、身体的、精神的虐待防止に向けて取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 地域権利擁護事業や成年後見制度について、職員皆が理解しており、必要に応じて活用される方も利用者の中でのいます。制度を活用できるように、関係者と協力して支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所する前や改定時に十分な説明を行い、利用者や家族の不安、訴えを聞き、家族の理解、納得を得たうえで契約、または解約を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の面会のない方もあり、全員の意見は得られないが、家族会を開催したり、常に利用者、家族の声を聞き入れ、不満、苦情の声に対して解決できるように努めている。また重要事項説明書には外部の相談機関への連絡先も明記している。	
			(外部評価) 利用者や家族が運営推進会議に参加しており、意見や要望を聞いている。面会時には家族と会話し、意見を聞くよう努めている。また、年2回家族会を行い、家族同士の交流や率直な意見を聞くことができている。毎月アトラス馬木便りに手紙を添えて送付し、遠方の家族にも近況を伝えている。電話等で連絡もこまめに行い、意見を聞くよう努めている。出された意見は迅速に対応するよう心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 定期的に職員間のミーティングを行い、職員個々の意見として、改善提案書などを書いてもらい、皆で検討して、改善に努めている。 (外部評価) 施設長は毎月のミーティングやユニット会、チーフ会で職員の要望や意見を聞くよう努めている。代表者が女性であることから月1回女性職員だけで食事会を開催したり、男性職員は母体の医療法人院長とスポーツや魚釣りなどに出かけ親睦を深めている。代表者や施設長に職員は何でも話しやすく、働きやすい職場環境や信頼関係づくりを大切にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員の個々の条件に応じ、勤務時間の調整、就業時間内勤務の徹底を行い各自が向上心を持って働けるように職場環境・条件の整備に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 施設内では、毎月勉強会を開いたり、個々に応じ研修会への参加を行ったり地域で行われる研修会への参加等を行っており、職員のスキル向上に努めている。職員が資格所得に努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 他のグループホーム企画するお茶会や祭り、運営推進会議の参加を行い、交流できる機会を持つと共に、ネットワーク作り相互訪問等活動を通じてサービスの向上に努めている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前に本人と面会し、困っている事、不安なこと、要望を傾聴し、よりお互いに信頼できる環境を作っている。利用者の声にできる限り答えられるように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 本人と同様に、事前によく話し合いを行い、困っている事、不安な事、要望を聞き入れ納得して頂いた上で信頼関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人と家族に、事前によく話し合いを行い、必要に応じた対応ができる体制をとるようにしている。本人と家族の要望に違いがあったり、GHの入所とは違いのある場合は別のサービスがあることをお伝えし、相談に乗っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日々の生活を共にする中で、教えてもらったり、支援したりして喜怒哀楽を共感できる関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 施設の行事にも、家族の方に参加して頂き、利用者の方と一緒に楽しめる環境を作ると共に家族が困ったときは、職員が協力をし、職員も家族に協力を依頼できる体制を作っている。毎月のお手紙で家族にその月の状態や、行ったことを報告し理解を得ている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人の希望を聞き入れ、馴染みの美容室へ行かれたり、近くのスーパーなどへ行き声をかけて頂いたりして馴染みの関係が途切れないように支援している。また個人的にもできる限り要望が叶えられるように支援している。 (外部評価) 友人や知人の面会時には、快く対応し、知人等への電話も掛けられるよう支援している。馴染みの美容室やすし屋などに出かけられるよう支援している。近所のコンビニやスーパーにもよく出かけ、店員と顔馴染みになり利用者が一人で外出をしている場合は声をかけてもらえるようにしている。利用者の高齢化や重度化に伴い、馴染みの関係が薄らいでいる現状もあるが、施設長は少しでも多く馴染みの関係を継続支援していく方針である。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 常に全体の把握に努め、互いの関係を考慮したレクリエーション活動への参加を働きかけ、孤立しない関係作りを行っているが、何かトラブルがある時は、職員が利用者の状態を理解し良い関わり合いが出来るように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所されても関係が保たれているよう、ご家族様と連絡を取り合ったりして、施設の行事等に快く来て下さり、一緒に参加されたりして、これまでの関係性を大切にしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 毎日の生活の中で、本人の思いや、希望を把握し、その思いに添えるその人らしい生活を送って頂けるよう取り組んでいる。 (外部評価) 日々の関わりの中で利用者に声をかけ、思いを把握するように努めている。思いの把握が困難な利用者には、表情や行動からくみ取ったり、家族から情報を得たりしながら、少しでも思いを知るよう努めている。お酒の好きな利用者には、ノンアルコールではあるが雰囲気を楽しんでもらったり、実際にワインを出し喜んでもらったりした事例もある。新たに知り得た情報は生活記録に残し、職員で共有し利用者の思いを大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) センター方式を活用し、入所時にご家族様を交え、これまでの生活歴、好きな物等、情報収集を行い、入所されてからの生活に反映していけるように支援している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ひとりひとりの生活のレベルに応じて無理なく生活ができるようにしている。休みたいときはゆっくりして頂き、食事、入浴等、出来ることはして頂いている。またその日の細かな変化を早期発見し対応できるように支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 計画担当者の指示のもと、関係する職員が集まり、その方にあった介護計画を作成し、介護支援専門員と相談し、本人、家族、必要な方の声を聴き、より良い生活が出来るように計画作成している。状態の変化がある場合は計画の立て直しをしている。	
			(外部評価) 利用者や家族の意見を事前に聞き取り、職員全員でカンファレンスを行い、担当職員を中心に利用者本位の介護計画の作成に努めている。定期的にモニタリングをして、チーム会で必要に応じて見直しをしている。職員全員の意見や気づきを大切に考え、介護計画がより良いものになるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子やケアの実践・結果、気づきを個別に記録している。職員間で情報を共有し意見を出し、再アセスメントし介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の状況、その都度のニーズへの対応、ひとりひとりにとって良い方法へのサービスを考慮し取り組んでいる。リハビリ室や特浴、畑や、愛犬の飼育等様々あり、個人の状態、要望に柔軟に対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 年間を通して地域の行事への参加、近くのお店への買い物、ボランティアなどの取り組みから体験し喜びや楽しみを感じることが出来ている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 協力医療機関と連携関係にあり、必要に応じた受診を行って いる。本人及び、家族の意見や要望を尊重し、かかりつけ医 による継続的な医療を受けられるように支援している。	
			(外部評価) ほとんどの利用者や家族が希望して、母体の診療所をかかり つけ医としている。月2回往診があり、急変時にも24時間迅 速に対応できる体制が整っており、利用者や家族には安心感 がある。専門医の受診は家族の同行を基本としているが、同 行できない場合には職員が対応し受診内容を家族に報告して いる。利用者が安心して適切な医療を受けられるよう支援し ている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 介護職員は常に利用者の変化を観察し、情報や気づきを看護 職員に報告、看護職員はその変化に対応し、医師との相談、 連携を行い必要時は受診や看護を受けられるように支援して いる。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 利用者が入院された場合は、こまめに面会に行くなど、安心 して頂けるように対応し、家族と相談しながら、また早期退 院に向けて病院関係者（医師・看護師）との情報交換、相談 を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入所の前に終末期また重度化した場合についての話し合いを 行っており、職員全員に周知している。終末期のあり方につ いて、本人、家族の要望を聞き、施設でできることを医療機 関とも相談し、チーム全体で支援取り組んでいる。	
			(外部評価) 「看取りに関する指針」を定め、入居時に事業所で対応でき る内容を家族に説明している。利用者の状態に合わせて、そ の都度医師から説明を行い、利用者や家族と話し合い意向を 聞くようにしている。終末期には家族に了承を得て部屋にカ メラを設置し、医師がどこにいても利用者の状態をパソコン の映像で把握することで、家族や職員の安心にも繋がってい る。緊急時にも職員が適切な対応ができるよう、心肺蘇生方 法やAEDの使用方法を新人研修や内部研修に取り入れ、職 員全員で意識できるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時に備えてその対応、対処法を定期的に講習し実践力を身につけている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に避難訓練、防災訓練を行っており、職員皆があらゆる方法を心得ている。消防署も近いので協力体制はできている。地域の方々にも避難訓練に参加して頂き、災害時の協力体制は整っている。 (外部評価) 年2回消防署立会いのもと避難訓練を行っており、内1回は夜間を想定した訓練を実施している。定期的な防災器具の点検や使用方法、避難場所の確認などを行い、職員に意識づけをしている。日頃から職員全員で防災意識を持つよう努め、利用者の安心安全な生活を守るため災害対策に取り組んでいる。	災害発生時に職員だけでの利用者の避難誘導等には限界があるため、近隣住民に事業所内の見学をしてもらい、一緒に訓練を実施するなど、協力体制を築くことを期待したい。また、施設長は備蓄品の用意が不十分と認識していることから、内容や数量等を見直すことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者ひとりひとりの生活のレベルに応じて、入浴、排泄、食事等の介助を行っており、プライバシーを損ねないよう言葉かけ、呼び名、敬語等にも配慮している。 (外部評価) 利用者の名前の呼び方を職員全員で話し合い、不快のない「○○さん」と統一した呼び方をしている。トイレや入浴の介助時には、利用者の羞恥心や尊厳を損なうことのないよう気を配り、声かけのタイミングや声の大きさなど不快のない対応を心がけている。また、利用者一人ひとりの人格を大切にして支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中でコミュニケーションを取りながら、利用者の表情や反応を観察し、その思いや希望を表せるような対応を心掛け、自己決定できるように働きかけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日常生活の中で、強制するのではなく、本人の希望を優先し、ひとりひとりのペースを大切にし、本人の過ごしやすい環境作りを支援している。外出等も参加希望を聞き本人の意思を大切にしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) おしゃれや身だしなみを通して、生活の中での楽しさを感じることができるよう、本人の好みを主にしながら支援している。本人の意思が聞けない場合は、家族から以前の好みを聞き、馴染みの装いができるように心掛けている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) ひとりひとりの声を聞き、メニューの参考にし、また外食等を行い、食事を楽しんでもらうよう、配慮している。また、準備や片付け等、出来る利用者には手伝って頂いている。 (外部評価) できるだけ旬の食材を使うよう心がけ、温かい物は温かく、冷たいものは冷たくと配慮して職員が調理している。食事前にはお茶で口を潤おしたり、歌を口ずさんだりして唾液を出すことで、食べやすく誤嚥しないよう注意を払っている。利用者は職員と同じテーブルを囲み、会話を楽しみながら食事をすることができている。また、利用者の好きなお寿司など外食ができるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者個々の摂取量、水分出納量を把握し、1日量を確保できるように支援している。ひとりひとりに応じて刻み食や補助食品を提供したり、水分も摂取しやすいように提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) ひとりひとりの口腔所内に応じ口腔ケアを毎食後行っている。一人で出来ない方は介助して行い、自分でできる方は見守りに対応している。義歯を使用している方は、義歯用歯ブラシを使用し、週3回定期的に消毒を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) ひとりひとりの排泄パターンを排泄チェック表を用いて職員皆が把握し出来るだけトイレでの排泄が出来るように、個々に合わせた誘導、声掛けを行い、自立に向けた支援を行っている。尿意、便意の訴えのできない利用者については、定期的に確認し交換を行っている。	
			(外部評価) 日中に利用者ができるだけトイレで排泄ができるよう支援している。排泄チェック表を用いて、一人ひとりのリズムやタイミングを把握するよう努めている。利用者の状態に合わせて、リハビリパンツを使用したり夜間のみポータブルトイレを使用したりするなどの対応をしている。また、トイレが2か所あり、状態に合わせて使い分けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘に関する理解は皆周知しており、個々の便秘の原因を確認し、食事メニューの検討、水分、散歩やリハビリ、運動などを行い、便秘予防に取り組んでいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴日は決まっているが、ひとりひとりの希望、タイミングは出来るだけ合わすように配慮している。また気持ちの良い入浴が楽しめるように心がけている。	
			(外部評価) 週3回の入浴を基本としているが、利用者の希望があれば毎日入浴できるよう支援している。入浴を嫌う利用者には、無理強いしないよう声かけやタイミングを工夫している。また、特殊浴槽が完備され、利用者の状態に合わせて使用するなど、安心安全に気持ちよく入浴を楽しむことができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個々の意見を尊重し、ゆっくり過ごせる自由な時間を設けている。必要な休息、睡眠を支援している。就寝時間も本人の希望に合わせて声掛け、誘導を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬のマニュアルを作成し、職員に皆が周知しており、利用者の処方薬について、目的、副作用は理解している。自力で服薬できない方は介助している。症状に変化がみられた場合は、主治医と相談しその症状に応じた対応が出来るように努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者個々の出来ること、出来ないことを把握しており、簡単な役割を持っていただくことにより、生活に張りを持っていただいている。個々に応じカラオケをしたり、カルタ、オセロをしたり、気分転換を図れるように支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) その日の状態、状況に応じ散歩、買い物などの気分転換を行っている。また外出場所は、それぞれの希望を聞き配慮したうえで計画している。地域交流会などにも参加したりしている。 (外部評価) 事業所前の庭は広く、日常的に外気浴を楽しんでいる。敷地内の畑で野菜づくりなどを楽しむ利用者もいる。事業所周辺や近くの公園に散歩したり、買い物に出かけたり、地域の交流会に参加するなど外出する機会が多い。季節毎にマイクロバスを使用し、イチゴ狩りや花見、買い物などに出かけることが多く、その際にはお弁当や外食等を取り入れ利用者の楽しみに繋がっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人の希望に応じ、欲しいものがあれば購入できるように支援している。現在はお金は施設管理にしており自分で所持している利用者はいない。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族の制限がない限り、本人の希望に応じて電話や気持ちの伝達など、その都度配慮して支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 毎日の掃除により衛生管理を徹底している。トイレには芳香剤を設置し、汚染時は速やかに消毒、掃除を行っている。湿度、温度、明るさなどの環境整備を配慮し、季節の花を飾ったり、金魚を飼ったりして、生活感、季節感が感じられ、居心地良く過ごせる工夫をしている。 (外部評価) リビングの壁には季節の飾りつけや月の行事予定が貼ってある。手作りカレンダーがあり、毎日利用者が日付を入れ替えている。金魚の水槽が置かれ、餌やりや鑑賞も利用者の楽しみとなっている。大きな窓から光が差し込み、窓辺のソファで利用者はゆっくりくつろいでいる。また、施設長は事業所内の臭気気づかい、清掃をこまめに行うことにより衛生管理も徹底し、利用者が過ごしやすい環境づくりをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビング、居室等、自由に過ごして頂いている。利用者同士仲の良い方は近くで過ごせるような工夫をしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入所の際は、本人の馴染みの物の持ち込みをお願いしており、本人がなるべく抵抗なく生活して頂けるような環境作りを行い、本人が居心地良く過ごせるような工夫をしている。 (外部評価) 居室はベッド、タンス、エアコンが備えつけられている。家族との写真や位牌、テレビ、ラジオなど馴染みの物が持ち込まれ、利用者が居心地よく過ごせる空間となっている。持ち込みの規制はしていないがシンプルにまとめられ、利用者の移動の妨げにならないよう配慮している。また、家族の了承を得て居室の前に利用者の写真を貼り、分かりやすいよう工夫している居室もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 生活の中で、歩行器やシルバーカーを使用し自立した歩行ができるように環境整備し転倒防止に努めている。また、安心して自立した生活が送れるようにトイレ誘導用の張り紙等、工夫している。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870103250
法人名	株式会社 ユニケア
事業所名	アトラス馬木
所在地	松山市馬木町2174番地
自己評価作成日	平成 26 年 10 月 20 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 11 月 11 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の皆様には、個別に応じて起立運動・滑車・電気治療等のリハビリメニューがあり。出来る限り毎日継続して行って頂いている。リハビリえお行うことにより、筋力・上下肢維持・向上に努めている。またリハビリ毎日継続して行うことで生活に張りが出て意欲の向上につなげている。また地域・施設の行事の参加することで、地域の方々との交流を図っている。季節感を味わっていただけるように、毎月、外出、外食を計画し取り組んでいる。また誕生日会では、職員が出し物をしたり、ボランティアの慰問を依頼するなどして利用者さんに楽しい時間を過ごして頂ける様支援している。今後は、地域の方々にも協力して頂き、行き来できる環境を作って行きたい。地域のアトラス馬木としてアトラス馬木から地域は発信できる事を見つけて今まで以上に地域との関わりを深めて行きたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は閑静な住宅街にあり車の通りも少ないため、日常的に事業所周辺や近くの公園まで散歩をしている。敷地内には広い畑があり、利用者と一緒に季節の野菜づくりを楽しんでいる。施設長をはじめ職員は理念にある「地域の中で共に暮らす」ことを大切に、積極的に外出を支援したり事業所でイベントを開催したりするなど、利用者が楽しみながら地域とかかわりが持てるよう努めている。共有スペースにはリハビリ室があり、歩行器や物理療法の機械が備え付けられ、機能訓練を図ることで日常生活動作が改善され利用者が喜ばれることもある。日頃から外気浴や散歩を取り入れ、季節毎に出かけるなど外出する機会が多く、利用者の気分転換にも繋がっている。また、代表者と施設長、職員とのコミュニケーションが図られ関係性がとてもよく、職員全員で利用者を大切に思いながらケアに反映できるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 アトラス馬木

(ユニット名) Cユニット

記入者(管理者)

氏名 菅谷 誠

評価完了日 平成 26 年 10 月 20 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 地域の中で共に、地域の方々と暮らしていける事、その人らしい生活を送れることを理念にあげ、職員全員が理念を共有し、実践につなげている。</p> <p>(外部評価) 理念にある「地域の中で共に暮らす」ということを大切にしてい地域とかかわりが持てる支援に力を入れている。理念は玄関と各ユニット、事務所の目につく場所に掲示し、職員全員で共有している。先日、職員間で理念を振り返り、「その人らしい」に着目して話し合ったところ奥が深いという結論になった。今後も「その人らしく」地域で暮らしていけるよう、施設長は利用者一人ひとりを理解し実践に繋げていきたいと改めて感じている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域行事(夏祭り、秋祭り、運動会、掃除、防災訓練等)に参加し、また施設の行事にも地域の方々に声をかけ参加して頂き、地域と施設(利用者)のつながり、関わりを大切にしている。散歩時の挨拶、会話の中でも、地域との交流は日常的に出来ている。</p> <p>(外部評価) 保育園児の訪問や小学校の運動会参加などで子どもたちとも顔馴染みになっている。事業所の行事にはチラシを配布し立ち寄りしてもらったり、地域の行事にも出掛け、今年の夏祭りには売り子として参加した。自治会に入会し市民大清掃にも参加するなど、地域とのつながりを大事にしている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 定期的で開催している運営推進会議や講習会の中で、認知症の人の理解や支援方法を伝達、報告している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 2か月毎の運営推進会議に、町内会長や公民館長、民生委員、介護保険課、地域の駐在委さん、他のグループホームの方、また家族の方にも参加して頂いており、利用者やサービスの実際、評価への取り組みとその結果についても報告を行い、地域の方、他のGHの方の意見を取り入れ、サービス向上に生かしている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は市担当者、社協職員、町内会長、民生委員、駐在所長、家族等の幅広い参加を得て開催している。会議には、他の事業所の職員等の参加が毎回あり、貴重な意見や情報を聞く機会となっている。また、参加者から地域住民等への呼びかけがあり、参加者増に繋がっている。母体は医療法人であることから病気や感染症などの資料を用意し、議題も豊富である。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 介護保険課の方、地域包括の方に運営推進会議等に参加して頂き、新しい情報を提供して頂ながら協力関係を築くように取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 市担当者が運営推進会議に参加しており、利用者の相談をするなど連携を深めている。後見人制度や生活保護などを利用することもあり、相談にのってもらうなど協力関係を築いている。苦情等があった場合には、市担当者にありのままの状況を報告している。市担当部署から事業所の近くにある公園の清掃など管理の依頼があり、利用者と一緒に清掃を行っている。また、書類などは郵送するのではなく、できる限り窓口を持参するなど、顔馴染みの関係が築けるよう努めている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 身体拘束についてのマニュアルを作成し職員全員が十分に理解をした上で、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。危険を伴う方については事前にご家族様へ十分な説明を行い、了解を頂いた上で、期間を決めて実践している。玄関の施錠は、防犯対策として夜間のみ施錠している。</p> <p>(外部評価) 身体拘束のマニュアルを作成し、職員が利用者に寄り添い見守ることで身体拘束をしないケアに取り組んでいる。新人研修には身体拘束等をテーマに取り入れるほか、勉強会やミーティング等で身体拘束をしないケアについて職員間で話し合っている。ベッドから転落の恐れのある利用者に見守りなどで対応していたが、現在、家族の同意を得て柵を使用している。言葉での拘束についても、職員全員で意識しながら適切な対応をするよう心がけている。また、夜間のみ防犯面に配慮し玄関を施錠している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待について職員は皆周知しており、勉強会などで再確認する機会を持ち、身体的、精神的虐待防止に向けて取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 地域権利擁護事業や成年後見制度について、職員皆が理解しており、必要に応じて活用される方も利用者の中でのいます。制度を活用できるように、関係者と協力して支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所する前や改定時に十分な説明を行い、利用者や家族の不安、訴えを聞き、家族の理解、納得を得たうえで契約、または解約を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族の面会のない方もあり、全員の意見は得られないが、家族会を開催したり、常に利用者、家族の声を聞き入れ、不満、苦情の声に対して解決できるように努めている。また重要事項説明書には外部の相談機関への連絡先も明記している。	
			(外部評価) 利用者や家族が運営推進会議に参加しており、意見や要望を聞いている。面会時には家族と会話し、意見を聞くよう努めている。また、年2回家族会を行い、家族同士の交流や率直な意見を聞くことができている。毎月アトラス馬木便りに手紙を添えて送付し、遠方の家族にも近況を伝えている。電話等で連絡もこまめに行い、意見を聞くよう努めている。出された意見は迅速に対応するよう心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 定期的に職員間のミーティングを行い、職員個々の意見として、改善提案書などを書いてもらい、皆で検討して、改善に努めている。 (外部評価) 施設長は毎月のミーティングやユニット会、チーフ会で職員の要望や意見を聞くよう努めている。代表者が女性であることから月1回女性職員だけで食事会を開催したり、男性職員は母体の医療法人院長とスポーツや釣りなどに出かけ親睦を深めている。代表者や施設長に職員は何でも話しやすく、働きやすい職場環境や信頼関係づくりを大切にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員の個々の条件に応じ、勤務時間の調整、就業時間内勤務の徹底を行い各自が向上心を持って働けるように職場環境・条件の整備に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 施設内では、毎月勉強会を開いたり、個々に応じ研修会への参加を行ったり地域で行われる研修会への参加等を行っており、職員のスキル向上に努めている。職員が資格所得に努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 他のグループホーム企画するお茶会や祭り、運営推進会議の参加を行い、交流できる機会を持つと共に、ネットワーク作り相互訪問等活動を通じてサービスの向上に努めている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前に本人と面会し、困っている事、不安なこと、要望を傾聴し、よりお互いに信頼できる環境を作っている。利用者の声にできる限り答えられるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 本人と同様に、事前によく話し合いを行い、困っている事、不安な事、要望を聞き入れ納得して頂いた上で信頼関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人と家族に、事前によく話し合いを行い、必要に応じた対応ができる体制をとるようにしている。本人と家族の要望に違いがあったり、GHの入所とは違いのある場合は別のサービスがあることをお伝えし、相談に乗っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日々の生活を共にする中で、教えてもらったり、支援したりして喜怒哀楽を共感できる関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 施設の行事にも、家族の方に参加して頂き、利用者の方と一緒に楽しめる環境を作ると共に家族が困ったときは、職員が協力をし、職員も家族に協力を依頼できる体制を作っている。毎月のお手紙で家族にその月の状態や、行ったことを報告し理解を得ている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人の希望を聞き入れ、馴染みの美容室へ行かれたり、近くのスーパーなどへ行き声をかけて頂いたりして馴染みの関係が途切れないように支援している。また個人的にもできる限り要望が叶えられるように支援している。 (外部評価) 友人や知人の面会時には、快く対応し、知人等への電話も掛けられるよう支援している。馴染みの美容室やすし屋などに出かけられるよう支援している。近所のコンビニやスーパーにもよく出かけ、店員と顔馴染みになり利用者が一人で外出をしている場合は声をかけてもらえるようにしている。利用者の高齢化や重度化に伴い、馴染みの関係が薄らいでいる現状もあるが、施設長は少しでも多く馴染みの関係を継続支援していく方針である。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 常に全体の把握に努め、互いの関係を考慮したレクリエーション活動への参加を働きかけ、孤立しない関係作りを行っているが、何かトラブルがある時は、職員が利用者の状態を理解し良い関わり合いが出来るように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所されても関係が保たれているよう、ご家族様と連絡を取り合ったりして、施設の行事等に快く来て下さり、一緒に参加されたりして、これまでの関係性を大切にしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 毎日の生活の中で、本人の思いや、希望を把握し、その思いに添えるその人らしい生活を送って頂けるよう取り組んでいる。 (外部評価) 日々の関わりの中で利用者に声をかけ、思いを把握するように努めている。思いの把握が困難な利用者には、表情や行動からくみ取ったり、家族から情報を得たりしながら、少しでも思いを知るよう努めている。お酒の好きな利用者には、ノンアルコールではあるが雰囲気を楽しんでもらったり、実際にワインを出し喜んでもらったりした事例もある。新たに知り得た情報は生活記録に残し、職員で共有し利用者の思いを大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) センター方式を活用し、入所時にご家族様を交え、これまでの生活歴、好きな物等、情報収集を行い、入所されてからの生活に反映していけるように支援している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ひとりひとりの生活のレベルに応じて無理なく生活ができるようにしている。休みたいときはゆっくりして頂き、食事、入浴等、出来ることはして頂いている。またその日の細かな変化を早期発見し対応できるように支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 計画担当者の指示のもと、関係する職員が集まり、その方にあった介護計画を作成し、介護支援専門員と相談し、本人、家族、必要な方の声を聴き、より良い生活が出来るように計画作成している。状態の変化がある場合は計画の立て直しをしている。	
			(外部評価) 利用者や家族の意見を事前に聞き取り、職員全員でカンファレンスを行い、担当職員を中心に利用者本位の介護計画の作成に努めている。定期的にモニタリングをして、チーム会で必要に応じて見直しをしている。職員全員の意見や気づきを大切に考え、介護計画がより良いものになるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子やケアの実践・結果、気づきを個別に記録している。職員間で情報を共有し意見を出し、再アセスメントし介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の状況、その都度のニーズへの対応、ひとりひとりにとって良い方法へのサービスを考慮し取り組んでいる。リハビリ室や特浴、畑や、愛犬の飼育等様々あり、個人の状態、要望に柔軟に対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 年間を通して地域の行事への参加、近くのお店への買い物、ボランティアなどの取り組みから体験し喜びや楽しみを感じることが出来ている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 協力医療機関と連携関係にあり、必要に応じた受診を行って いる。本人及び、家族の意見や要望を尊重し、かかりつけ医 による継続的な医療を受けられるように支援している。 (外部評価) ほとんどの利用者や家族が希望して、母体の診療所をかかり つけ医としている。月2回往診があり、急変時にも24時間迅 速に対応できる体制が整っており、利用者や家族には安心感 がある。専門医の受診は家族の同行を基本としているが、同 行できない場合には職員が対応し受診内容を家族に報告して いる。利用者が安心して適切な医療を受けられるよう支援し ている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 介護職員は常に利用者の変化を観察し、情報や気づきを看護 職員に報告、看護職員はその変化に対応し、医師との相談、 連携を行い必要時は受診や看護を受けられるように支援して いる。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 利用者が入院された場合は、こまめに面会に行くなど、安心 して頂けるように対応し、家族と相談しながら、また早期退 院に向けて病院関係者（医師・看護師）との情報交換、相談 を行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入所の前に終末期また重度化した場合についての話し合いを 行っており、職員全員に周知している。終末期のあり方につ いて、本人、家族の要望を聞き、施設でできることを医療機 関とも相談し、チーム全体で支援取り組んでいる。 (外部評価) 「看取りに関する指針」を定め、入居時に事業所で対応でき る内容を家族に説明している。利用者の状態に合わせて、そ の都度医師から説明を行い、利用者や家族と話し合い意向を 聞くようにしている。終末期には家族に了承を得て部屋にカ メラを設置し、医師がどこにいても利用者の状態をパソコン の映像で把握することで、家族や職員の安心にも繋がってい る。緊急時にも職員が適切な対応ができるよう、心肺蘇生方 法やAEDの使用方法を新人研修や内部研修に取り入れ、職 員全員で意識できるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時に備えてその対応、対処法を定期的に講習し実践力を身につけている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に避難訓練、防災訓練を行っており、職員皆があらゆる方法を心得ている。消防署も近いので協力体制はできている。地域の方々にも避難訓練に参加して頂き、災害時の協力体制は整っている。 (外部評価) 年2回消防署立会いのもと避難訓練を行っており、内1回は夜間を想定した訓練を実施している。定期的な防災器具の点検や使用方法、避難場所の確認などを行い、職員に意識づけをしている。日頃から職員全員で防災意識を持つよう努め、利用者の安心安全な生活を守るため災害対策に取り組んでいる。	災害発生時に職員だけでの利用者の避難誘導等には限界があるため、近隣住民に事業所内の見学をしてもらい、一緒に訓練を実施するなど、協力体制を築くことを期待したい。また、施設長は備蓄品の用意が不十分と認識していることから、内容や数量等を見直すことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者ひとりひとりの生活のレベルに応じて、入浴、排泄、食事等の介助を行っており、プライバシーを損ねないよう言葉かけ、呼び名、敬語等にも配慮している。 (外部評価) 利用者の名前の呼び方を職員全員で話し合い、不快のない「○○さん」と統一した呼び方をしている。トイレや入浴の介助時には、利用者の羞恥心や尊厳を損なうことのないよう気を配り、声かけのタイミングや声の大きさなど不快のない対応を心がけている。また、利用者一人ひとりの人格を大切にして支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中でコミュニケーションを取りながら、利用者の表情や反応を観察し、その思いや希望を表せるような対応を心掛け、自己決定できるように働きかけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日常生活の中で、強制するのではなく、本人の希望を優先し、ひとりひとりのペースを大切にし、本人の過ごしやすい環境作りを支援している。外出等も参加希望を聞き本人の意思を大切にしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) おしゃれや身だしなみを通して、生活の中での楽しさを感じることができるよう、本人の好みを主にしながら支援している。本人の意思が聞けない場合は、家族から以前の好みを聞き、馴染みの装いができるように心掛けている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) ひとりひとりの声を聞き、メニューの参考にし、また外食等を行い、食事を楽しんでもらうよう、配慮している。また、準備や片付け等、出来る利用者には手伝って頂いている。 (外部評価) できるだけ旬の食材を使うよう心がけ、温かい物は温かく、冷たいものは冷たくと配慮して職員が調理している。食事前にはお茶で口を潤おしたり、歌を口ずさんだりして唾液を出すことで、食べやすく誤嚥しないよう注意を払っている。利用者は職員と同じテーブルを囲み、会話を楽しみながら食事をすることができている。また、利用者の好きなお寿司など外食ができるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者個々の摂取量、水分出納量を把握し、1日量を確保できるように支援している。ひとりひとりに応じて刻み食や補助食品を提供したり、水分も摂取しやすいように提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) ひとりひとりの口腔所内に応じ口腔ケアを毎食後行っている。一人で出来ない方は介助して行い、自分でできる方は見守りに対応している。義歯を使用している方は、義歯用歯ブラシを使用し、週3回定期的に消毒を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) ひとりひとりの排泄パターンを排泄チェック表を用いて職員皆が把握し出来るだけトイレでの排泄が出来るように、個々に合わせた誘導、声掛けを行い、自立に向けた支援を行っている。尿意、便意の訴えのできない利用者については、定期的に確認し交換を行っている。	
			(外部評価) 日中に利用者ができるだけトイレで排泄ができるよう支援している。排泄チェック表を用いて、一人ひとりのリズムやタイミングを把握するよう努めている。利用者の状態に合わせて、リハビリパンツを使用したり夜間のみポータブルトイレを使用したりするなどの対応をしている。また、トイレが2か所あり、状態に合わせて使い分けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘に関する理解は皆周知しており、個々の便秘の原因を確認し、食事メニューの検討、水分、散歩やリハビリ、運動などを行い、便秘予防に取り組んでいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴日は決まっているが、ひとりひとりの希望、タイミングは出来るだけ合わすように配慮している。また気持ちの良い入浴が楽しめるように心がけている。	
			(外部評価) 週3回の入浴を基本としているが、利用者の希望があれば毎日入浴できるよう支援している。入浴を嫌う利用者には、無理強いしないよう声かけやタイミングを工夫している。また、特殊浴槽が完備され、利用者の状態に合わせて使用するなど、安心安全に気持ちよく入浴を楽しむことができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個々の意見を尊重し、ゆっくり過ごせる自由な時間を設けている。必要な休息、睡眠を支援している。就寝時間も本人の希望に合わせて声掛け、誘導を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬のマニュアルを作成し、職員に皆が周知しており、利用者の処方薬について、目的、副作用は理解している。自力で服薬できない方は介助している。症状に変化がみられた場合は、主治医と相談しその症状に応じた対応が出来るように努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者個々の出来ること、出来ないことを把握しており、簡単な役割を持っていただくことにより、生活に張りを持っていただいている。個々に応じカラオケをしたり、カルタ、オセロをしたり、気分転換を図れるように支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) その日の状態、状況に応じ散歩、買い物などの気分転換を行っている。また外出場所は、それぞれの希望を聞き配慮したうえで計画している。地域交流会などにも参加したりしている。 (外部評価) 事業所前の庭は広く、日常的に外気浴を楽しんでいる。敷地内の畑で野菜づくりなどを楽しむ利用者もいる。事業所周辺や近くの公園に散歩したり、買い物に出かけたり、地域の交流会に参加するなど外出する機会が多い。季節毎にマイクロバスを使用し、イチゴ狩りや花見、買い物などに出かけることが多く、その際にはお弁当や外食等を取り入れ利用者の楽しみに繋がっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人の希望に応じ、欲しいものがあれば購入できるように支援している。現在はお金は施設管理にしており自分で所持している利用者はいない。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族の制限がない限り、本人の希望に応じて電話や気持ちの伝達など、その都度配慮して支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 毎日の掃除により衛生管理を徹底している。トイレには芳香剤を設置し、汚染時は速やかに消毒、掃除を行っている。湿度、温度、明るさなどの環境整備を配慮し、季節の花を飾ったり、金魚を飼ったりして、生活感、季節感が感じられ、居心地良く過ごせる工夫をしている。</p> <p>(外部評価) リビングの壁には季節の飾りつけや月の行事予定が貼ってある。手作りカレンダーがあり、毎日利用者が日付を入れ替えている。金魚の水槽が置かれ、餌やりや鑑賞も利用者の楽しみとなっている。大きな窓から光が差し込み、窓辺のソファで利用者はゆっくりくつろいでいる。また、施設長は事業所内の臭気気づかい、清掃をこまめに行うことにより衛生管理も徹底し、利用者が過ごしやすい環境づくりをしている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) リビング、居室等、自由に過ごして頂いている。利用者同士仲の良い方は近くで過ごせるような工夫をしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 入所の際は、本人の馴染みの物の持ち込みをお願いしており、本人がなるべく抵抗なく生活して頂けるような環境作りを行い、本人が居心地良く過ごせるような工夫をしている。</p> <p>(外部評価) 居室はベッド、タンス、エアコンが備えつけられている。家族との写真や位牌、テレビ、ラジオなど馴染みの物が持ち込まれ、利用者が居心地よく過ごせる空間となっている。持ち込みの規制はしていないがシンプルにまとめられ、利用者の移動の妨げにならないよう配慮している。また、家族の了承を得て居室の前に利用者の写真を貼り、分かりやすいよう工夫している居室もある。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 生活の中で、歩行器やシルバーカーを使用し自立した歩行ができるように環境整備し転倒防止に努めている。また、安心して自立した生活が送れるようにトイレ誘導用の張り紙等、工夫している。</p>	